



国立病院機構(NHO)宇都宮病院院内広報誌



基本理念

私たちは、地域から強く信頼される病院を目指します
そのために、誠実で前向きで勤勉であるよう努めます

目次

20 **冬** 14
第30号
広報誌 / 年4回発行
発行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：平成 26年 1月 1日
発行責任者：沼 尾 利 郎

- | | |
|---|------------------------------------|
| ■ 新年のご挨拶 …………… 1 | ■ 選択食をはじめました。…………… 4 |
| ■ 第2回 栃木県重症心身障害連絡協議会
ネットワーク研修会報告 …………… 2 | ■ 新病棟建替工事について…………… 5 |
| ■ QC活動報告
～スレット管理でスマート与薬～ … 3 | ■ 当院南側道路の拡張工事について…………… 5 |
| ■ 第67回 国立病院総合医学会 …………… 3 | ■ 秋の健康まつりを実施して…………… 6 |
| ■ 平成25年度内分泌・代謝性疾患研修会に参加して… 4 | ■ ケーナとウクレレ
～2013クリスマスコンサート～ … 6 |

新年のご挨拶

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は前年同様に当院にとって大きな変化の年でした。1月には念願の電子カルテが導入され医療の効率化が大幅に改善しましたが、医療安全や医療の質の向上のためには今後も継続的な努力が不可欠です。4月には芳賀紀裕先生が臨床研究部長（がん診療部長兼任）として赴任され、臨床と研究の両面において活躍しています。

7月には病院の中期計画（ロードマップ）の1つである「地域医療支援病院」が栃木県から承認され、当院は名実ともに地域中核病院となりました。さらに8月から「病棟薬剤業務」も開始しており、医師・看護師の負担軽減だけでなく薬物療法の質的向上などにも大きな貢献が期待されています。昨年末からは大学病院の研修医も受け入れており、臨床研修病院としての使命もますます重要になっています。

このように変化の時代は今年も続く訳ですが、良質で丁寧な医療を提供することに変わりはありません。「良質で丁寧」といえば、英国を代表する画家であるターナー（1775-1851）の回顧展を観る機会が最近ありました。彼は卓越した写実力で名声を確立した後も伝統に安穩せず、常に新しい表現を模索し続けた挑戦者でした。「大作でも細部まで精巧に描き込んでおり、何げない風景ながら人の心に響く表現」「斬新な技法と繊細な色彩で人の心をつかむ作品」。当院の医療もそうありたいものです。

時代がどんなに変わろうとも、私たちがなすべきことは変わりません。当院が目指すのは「安全で質の高い医療を患者さんの視点に立って提供すること」であり、「患者さんや地域から信頼され、職員にとっても働き甲斐のある病院の実現」です。地域との連携をより一層進化させながら、地域医療と政策医療に貢献すべく努力いたしますので、本年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



ターナー「レグルス」 1828年 発表

第2回 栃木県重症心身障害連絡協議会 ネットワーク研修会報告

地域医療連携室 MSW 永山悦子

平成25年11月21日、あしかがの森足利病院において県内4カ所の重症心身障害児者施設（あしかがの森足利病院・星風会病院星風院・なす療育園、当院）でつくる栃木県重症心身障害連絡協議会ネットワーク研修会が開催されました。

今回は4施設の他にNICU（新生児集中治療室）病棟を持つ自治医科大学・獨協医科大学・済生会宇都宮病院・足利赤十字病院より医師・看護師・MSW（医療ソーシャルワーカー）・PT（理学療法士）・OT（作業療法士）・ST（言語聴覚士）・児童指導員・保育士など約100名の医療従事者が参加されました。

初めにあしかがの森足利病院院長・看護部長から病院の概況説明があり、その後で平成24年2月に改築された重症心身障害児者病棟や通園センター・スヌーズレンルーム（多重感覚環境ルーム）・親子交流室等を見学しました。

入所者の障害に合わせた細やかな工夫が随所に見受けられ、新棟建設中である当院関係者は熱心に質問と見学を続けていました。特にスヌーズレンルームでは、光ファイバー・バブルチューブ・ウォーターベッドなどの貴重な感覚体験ができました。

次に小林靖明先生（足利赤十字病院小児科部長）より「当院における新生児医療の現状と重症心身障害児者施設との連携」について講演があり、「医療技術の進歩で救命出来る超低体重児や早産児が増えたが、重い後遺症を持つことが多いためNICU病棟は常に満床となっており、在宅支援やポストNICUとの連携が極めて重要である」との内容で、来年度増床（20床）となる当院への期待を強く感じるものでした。

最後の職種別分科会では、【看護】・【リハビリ】・【介護、療育】・【施設管理職、MSW】の4つの部会では各施設で抱えている問題について熱心な意見交換が行われました。

特にMSWにおいては、制度が複雑に変わり、病院・施設ともに正確な情報が確認出来ない現状であり、「今後は行政を含めた関係機関の連携が最重要課題である」との話し合いがなされました。

今回の研修会を通じて、NICU病棟・新生児医療の現状や重症心身障害児者受け入れについての問題点、在宅支援も含めた他職種間の連携の重要性等が改めて認識されました。

最後に、お寒い中を駐車場から会場までスムーズに案内して下さったあしかがの森足利病院の職員の方々、また御多忙中にもかかわらず参加いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



QC活動報告 ～スレット管理でスマート与薬～

西1看護師長 上 武 直 美

平成23年度のインシデントの中で無投薬が多いことが明らかになり、確認行動の統一と薬の指示受け方法・保管場所に問題があると考えました。テーマは、内服の指示受けから与薬までの確認行動の徹底とし、取り組みは全員参加としました。目標は 1. 内服薬の無投薬のインシデントが前年度比20%減となる 2. 一時的な中止薬の管理方法を統一できる 3. 指示受けから与薬までマニュアルに沿って行えるとしました。

このようなヒューマンエラーに対し効果的といわれている、スレットの三管理を活用しました。環境チームは、患者ごとの保管ケースの作成や配薬車の整理を行い、薬の確認エリアを一か所にすることで動線の短い安全な環境をつくること出来、業務の良好化が図れました。マニュアルチームは、保管マニュアルを作成し、確認しやすい配薬車にセッティングした結果、作業標準の制定ができました。教育チームは、指示受けから与薬までをアクションカードに沿って、全員が指さし声だし確認しました。合格したスタッフには「できましたシール」を贈ったことでスタッフの意識が高まり、教育訓練啓発に繋げることが出来ました。その結果全員で取り組んだことで習慣化する事ができ、無投薬インシデント件数は、前年比21.3%減となり、目標達成することができました。

今回取り組んだQC活動が認められ、国立病院機構 関東信越ブロックで特別優秀賞を頂くことができ、とてもうれしく思っています。今後もチームで楽しくQC活動に取り組んでいきたいと思ひます。



桐野理事長からの表彰状授与

スレットへの3管理



罠 スレットに備える

スレットとは、目標遂行への脅威(罠)となる要素

- ①病棟勉強会の実施
- ②3つのチーム活動



第67回 国立病院総合医学会

臨床検査科 塩谷 香奈

第67回国立病院総合医学会が平成25年11月8日～9日まで石川県金沢市にて開催されました。

今回私は「当院における褥瘡患者に対する超音波検査の取り組み」と題し、栄養・NST・褥瘡部門にて発表させていただきました。“褥瘡(じょくそう)”とは一般的に“床ずれ”と言われていますが、長い間寝たきりで十分な栄養がとれず、免疫力の低下した患者さんが、皮膚に潰瘍、さらには壊死をおこすような皮膚疾患をいいます。当院では入院患者さんの褥瘡ケアを目的に、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、作業療法士、管理栄養士などが一丸となって対策チームを作り、週に一回病棟回診を行っております。その中で、各職種が専門知識を出し合って患者さんの褥瘡を治していくのですが、我々臨床検査の分野には褥瘡に対する専門性が低く、病棟回診時に力を発揮できないことがありました。しかしここ最近の研究結果により、超音波診断装置を用いて褥瘡を観察することは診断・治療に有意義であると分かり、当院でも褥瘡患者さんに対する超音波検査を試みることとなりました。超音波検査は主に肝臓や心臓、血管などを観察しますが最近は神経や関節にも用いられます。特に皮膚に近い部位は最も力を発揮し、褥瘡の深さや広がりを観察するのに適しています。

今学会では当院での成果についてまとめ、「褥瘡の悪化を防ぐためには超音波検査の実施が重要である」ことを発表しました。結果としてベストポスター賞を頂くことができ、大変光栄に思ひます。今後も臨床検査技師として超音波を駆使し、褥瘡を見ていくことで診断・治療に貢献したいと考えております。



平成25年度内分泌・代謝性疾患研修会に参加して

薬剤科 山田 豪 樹

平成25年10月29日から31日にかけて、国立病院機構京都医療センターで開催された「内分泌・代謝性疾患研修会」を受講して来ました。研修テーマは「ライフステージに合わせた糖尿病教育の実践と評価法」で、1日目に各病院で行っている糖尿病治療の現状と課題の把握、2日目に運動療法の実践セミナーや糖尿病に関連する合併症の講義、3日目は1日目に出た課題に関する検討とその発表を行いました。

研修全体から感じたことは、

- ①全国各地の病院で「糖尿病教室」を行っており、糖尿病に関するチーム医療を多くの病院で実践している。
- ②糖尿病は生涯付き合う病気であるため、各年代に合わせた治療や患者さん一人一人に合わせた治療を行う必要がある。

の2点を強く感じました。

また糖尿病治療には食事療法や運動療法の他、薬物療法があります。薬物療法ではインスリン自己注射や飲み薬を適切に服用する事が必要で、低血糖への患者自身の対応も求められます。糖尿病治療には患者自身も食事・運動・薬物に関する知識が必要で、患者自身の高齢化に加え周囲でサポートする体制が少子化により十分でない状況が治療の継続を困難にしていると感じ、当院も含め全国各地の病院共通の課題としてあげられました。今回の講義では少子高齢化を課題とした症例検討が講義内容に組み込まれていました。

現在当院では栄養士と臨床検査技師による糖尿病患者に対する集団指導が行われていますが、今回の研修を機に薬剤師による糖尿病集団指導の必要性を感じ今後行いたいと思います。



選択食をはじめました。

栄養管理室長 内山 智子

平成25年11月より、選択食を2年8ヶ月ぶりに再開しました。より良い選択食を目指し栄養士、調理師ともに検討しやっと準備が整いました。

選択食は、特別な制限のない普通食（常食・学童食）を食べていただいている患者さんを対象に、水曜日から金曜日までの週3日、昼食と夕食時に選択食を実施しています。患者さん自身で2種類の献立からお好みのお料理を選んでいただいています。通常とはちょっと変わった献立となっていますので、入院中少しでも楽しんでいただければと思っています。選択食を選ぶと100円の別途料金が発生いたします。選択食の申し込み用紙は食事配膳時のトレーに載せてお知らせしています。治療食を食べている患者さんは治療が優先となりますので、選択食を利用できませんが予めご了承ください。

入院中の食事は治療の一翼を担い、「安全で安心な美味しい食事を」モットーに提供しています。おいしい食事で病んだ体や心を癒し、サービスの向上にも努めていきたいと考えております。



オムライス



ナポリタン



ビビンバ



メンチカツ



ぶり大根



海鮮焼きそば



ナン・2種カレー盛



三色丼

新病棟建替工事について

業務班長 渡邊 博幸

平成26年度までに完成をめざし工事を進めている新病棟は免震構造の施設であり、RC造6階建て・延べ床面積は1万0391㎡、設計監理はINA新建築研究所（東京都文京区）が担当しました。

- [1] 質の高い医療環境（安全で業務効率の良い設備・構造、院内感染防止を重視した導線・設備）
 - [2] やすらぎの療養環境（プライバシーやアメニティに配慮、地域社会や周囲の自然環境に配慮）
 - [3] 変化に強い施設環境（災害に強い設備・構造、省エネやエコロジーに配慮）
- この3点を新病棟のコンセプトとして、地震に強い免震構造となっています。

1階と2階には重症心身障害病棟（各50床）、3階には手術室と中材室、4階には整形外科（60床）、5階には呼吸器（30床）と結核（30床）、6階にはリハビリテーション棟と屋上を配置しています。

平成25年12月には免震装置据え付け工事が始まっています。



当院南側道路の拡張工事について

病院南側における道路の歩行者安全性を確保する観点から3,496.82㎡の当院敷地（長さ約420m、幅約8m）を宇都宮市に売り払いすることで協議が終了し、現在は南側道路の拡張工事が進んでいます。



秋の健康まつりを実施して

管理課長 関口実直

平成25年11月14日に、地域の住民の方々に医療への理解と関心を高めていただくことを目的として、「健康まつり」を開催いたしました。場所は近隣のスーパーマーケット「とりせん岡本店」の店頭で、身長・体重測定、血圧測定、健康相談（医師、薬剤師、栄養士）、腰痛に対するリハビリ体操など実施しました。当日は秋晴れに恵まれ、買い物にいられた多くの方々にご利用いただきました。来られた方からは「このような機会に健康相談が出来てよかった」等のご意見をいただきました。

今後もこのような行事を計画したいと考えております。



ケーナとウクレレ

～2013クリスマスコンサート～

外科系診療部長 伊藤知和

毎年恒例のクリスマスコンサート。今年はケーナという楽器のサークル「ハーモニー」をお迎えしました。ホストは当院のサークル「ゆうゆうウクレレ隊」。

さてケーナという楽器、ご存知ですか？南米の民族楽器で、竹でできたたて笛です。一件尺八のような…（笑）

「ハーモニー」さんたちと我々ウクレレ隊は2カ月程前から会議室で練習を重ねました。普段はケーナの先生の作ったカラオケをバックに演奏する事が多いそうですが、折角なので、当院前放射線技師長の松崎さんとMSWの吉田さんがギターとフルートで応援することとなり、4回ほどの熱い練習を経ての本番となりました。

第一部はウクレレ隊で、9名参加し、歌とウクレレの演奏を披露。第二部の「ハーモニー」は総勢8名。みんなで口ずさめる童謡や歌謡曲等を演奏して下さいました。特にアンコールの「コンドルは飛んでいく」はケーナの真骨頂。息のあった素敵な音色でした。両チームのコラボ演奏の後、第三部「みんなで歌おう」のコーナーではクリスマスソングや「ふるさと」をみんなで歌い演奏し、お開きとなりました。

大勢の方に集まって頂き、寒い夜でしたが、心温まる時間を過ごす事ができました。そして何より自分たちが楽しんでいました。

皆さん、ありがとうございました。



編集後記

2020年東京オリンピックの開催決定し、新しい年にはソチ冬季オリンピックやサッカーワールドカップで日本中が盛り上がる1年になりそうです。当院の院内食堂「コア」の窓からは着々と新棟が出来上がる様子を見え待ちどろしい思いです。「わかあゆ」からそんな病院の盛り上がりをお伝えできればと思います。

東6看護部長 小林愛美



【奥日光高徳沼から男体山を望む冬景色】
表紙撮影：渡部孝夫さん（元放射線技師）

外来診療担当医表

(平成 26年 1月 1日現在)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科(初診・予約外)		吉川弥須子／ 勝部 乙大	吉川弥須子／ 池田 直哉	安西真紀子	沼尾 利郎／ 滝澤 秀典 勝部 乙大	崎尾 浩由
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	菊池 朋子	友常 孝則	佐藤 稔	森 豊
	午後	佐藤 稔	菊池 朋子		佐藤 稔	
神経内科	午前	伊藤 雅史			伊藤 雅史	
	午後					
消化器内科	午前	星野 孝文	菅谷 洋子	秋間 崇	大木 了	菅谷 洋子
	午後		菅谷 洋子			菅谷 洋子
循環器内科	午前	正和 泰斗	田所寿剛(1・3・5週) 伊藤 致(2・4週)	柴田 佳優		伊藤 致(2・4週)
	午後	正和 泰斗	田所寿剛(1・3・5週) 伊藤 致(2・4週)	柴田 佳優		伊藤 致(2・4週)
呼吸器内科	午前	池田 直哉	沼尾 利郎	滝澤 秀典	野村 由至	吉川弥須子
	午後	池田 直哉	沼尾 利郎／	滝澤 秀典	野村 由至／ 勝部 乙大	吉川弥須子／ 崎尾 浩由
腎臓内科	午後				岡田和久(2・4週) [予約制]	
小児科	午後		影山さち子 (予防接種) [予約制]		影山さち子 子供養育相談ルーム [予約制](第2・4)	
小児神経外来	午後	奥野 章(3週) [予約制]				
外科	1 診	増田 典弘	伊藤 知和	滝田 純子	増田 典弘	芳賀 紀裕
	2 診	伊藤 知和	百目木 泰	増田 典弘	山口 悟	伊藤 知和
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶藷 昌明 (初診のみ)	熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)	茶藷(第1・3・5週) 石川(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	皆川 和彦		皆川(第1・5週) 茶藷(第2・4週) 熊谷(第3週)		皆川 和彦
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶藷 昌明	茶藷 昌明	熊谷 吉夫
装具外来	田中 孝昭					熊谷 吉夫
歯科(入院患者のみ)			渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
物忘れ外来(午後・予約制)				伊藤 雅史		
禁煙外来(午後・予約制)						沼尾 利郎／ 吉川弥須子
眼科(午後・予約制)						松原 忠之／ 和泉田真作
皮膚科(午後・予約制)				小田佐智子		
耳鼻咽喉科(午後・予約制)	柏木 隆志／					

外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30～11:00迄です。
緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 「物忘れ外来」は、地域医療連携室にて電話予約を受け付けています。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374 (直通) FAX 028-673-1961 (直通)
担当(ソーシャルワーカー): 永山悦子・畑野多恵・齋藤恵子・市村麻貴・齋藤裕希(内線133)



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

<http://un-hosp.jp/>